

○ストーブ(暖房器具)の思い出 2月25日朝会より

教室のエアコンがこわれてしまいました。修理が終わるまで、しばらく中に灯油(とうゆ)を入れるタイプのストーブを使います。中で火が燃えているので、さわったら大やけど、ぜったいに近づかないでくださいね。そういえば、教室をあたためる「暖房器具」(だんぼうきぐ)も、進化してきました。

○校長先生が小学校一年生の頃、教室には「コークス」という黒い石のようなものを入れるタイプのストーブでした。トーマスのような機関車に使うコークスです。もちろん、さわったら大変です。



○このコークスがなくなってくると、日直が学校の地下室にそれを取りに行かなくてはいけませんでした。地下への階段を下り、その奥が長いトンネルのようになっていました。トンネルの奥には、何かこわい何かがあるというわさがあったので、日直当番が回ってくるのがいやでたまりませんでした。学校は建て直され、今は地下室はなくなっているはずですが、何が住んでいたのかな。



○そして、先生になったばかりの頃はストーブの燃料が灯油になりました。今から 40 年ぐらい前のことです。でも、上のふたを開けて、しみ出してきた灯油にマッチをポトツと落とさないで火が付かない仕組みでした。朝、子供たちが登校してくる前にそれをしていきますストーブの上には水を入れた「金だらい」(ドリフのコントで、頭の上に落ちてくるアレです。)を置いて、部屋が乾燥しないようにしていました。もちろん、まわりには「さく」がありました。なつかしいな。



○そして、つい最近まで、ガス式の暖房器具が教室の左前の所におかれていました。窓側に置いてあるので、すぐにそこにすわったり、のぼったりする子がいて何回も注意をしました。コークスの頃に比べると大きな進化でした。ボタン一つでオンオフができるなんて夢のようでした。そして現代は、エアコン。夏は涼しく、冬は暖かく、素晴らしいですね。

